

温古知新① 源氏物語1 1

笑顔礼讃西東

慶大俳句丘の会様(神奈川県・鎌倉市) 2~3

新潟日報文芸選者に学ぼう 寺泊様(新潟県・長岡市) 3~4

三上政雄様(東京都・三鷹市) 5

投稿作品 6~10

心に残った作品 10

詠み人スクランブル(父の日におすすめのプレゼント) 11~12

ニユースあれこれ 13

お客様の「リレーエッセイ」 松嶋光秋様 14

新潟ぶらり／どっぴり坂周辺／医の博物館 15

詠み人の「リレーエッセイ」俳人 高田正子様 16

6

June
Vol.56

詠み人応援マガジン

詩歌俳柳壇ニユース



温古知新①

「源氏物語」1

さて、今月もはじまりました、「温古知新」！
今月から何回かにわたって、「源氏物語」をご紹介します。
していきます。

以前「古典を繙く」でもご紹介しましたが、さらっとおさらいを。「源氏物語」は平安時代中期に成立した日本の京都を舞台とした長編物語。全五十四帖。天皇の親王として出生し、才能・容姿ともにめぐまれながら臣籍降下して源氏姓となった光源氏の栄華と苦悩の人生、およびその子孫らの人生を描きます。

今回は一卷「桐壺」～五巻「若紫」までのあらすじを。

どの帝の御代だったか、それほど高い身分ではないが帝から大変な寵愛を受けた方(桐壺更衣)がいました。二人の間には輝くように美しい皇子が生まれましたが、他の妃たちの嫉妬や嫌がらせが原因か、桐壺は三歳の皇子を残して病死。深く嘆く帝を慰めるため、亡き桐壺に生きうつしの先帝の皇女(藤壺)が入内、新たな寵愛を得ました。皇子は帝のもとで育てられ、亡き母に似ているという藤壺を殊更に慕います。源氏はその光り輝くような美貌から「光君」と呼ばれるようになり、帝は元服した皇子を臣籍に列し源姓を与え、左大臣家の娘葵の上の婿としますが、源氏は葵の上に親しみを持てません。

五月雨の夜、十七歳になった光源氏、頭中将ら四人で「雨夜の品定め」(女性談義)をします。翌日、紀伊守の屋敷に方違えのために訪れた源氏は、前日話題となった中流階級の女性である空蟬

(伊予介の後妻)に興味を持ち、強引に一夜を共にしました。

その後、空蟬を忘れられない源氏は、再び紀伊守邸へ忍んで行きます。源氏の訪れを察した空蟬は、薄衣一枚を脱ぎ捨てて逃げ去り、後に残された継娘軒端萩と契つた源氏はその薄衣を代わりに持ち帰りました。

同じころ、大貳の乳母の見舞いの折、夕顔の花の咲く邸を発見。源氏は自分を隠して彼女のもとに通うようになります。あるとき、夕顔とともに逢引で寂れた某院を訪れますが、深夜に物の怪が現れ、夕顔は明け方に息を引き取りました。

瘡を病んで加持のために北山を訪れた源氏は、通りかかった家で密かに恋焦がれる藤壺の面影を持つ少女(後の紫の上)を垣間見ます。少女の大伯父の僧都によると、彼女は藤壺の兄兵部卿宮の娘で、父の正妻による圧力を気に病んだ母が早くに亡くなった後、祖母の尼君の元で育てられ十余年たつたといいます。源氏は少女の後見を申し出ますが、結婚相手とするにはあまりに少女が幼いため、尼君は本気にはしませんでした。四月、病で藤壺が里下がりをし、源氏は藤壺の侍女王命婦の手引きで再会を果たします。その後藤壺は源氏の文も拒み続けましたが、既に藤壺は源氏の子を妊娠していたのです。一方、北山の尼君はその後少女と共に都に戻っていました。晩秋、源氏は見舞いに訪れますが、尼君はそれから間もなく亡くなってしまうました。身寄りのなくなった少女を、源氏は父兵部卿宮に先んじて自らの邸二条院に連れ帰り、恋しい藤壺の身代わりに理想的な女性に育てようと考えたのです。

と、紫の上の登場で、今月はおしまい。次号、さらなる展開を迎えます。お楽しみに！(古川久美子)

慶大俳句丘の会

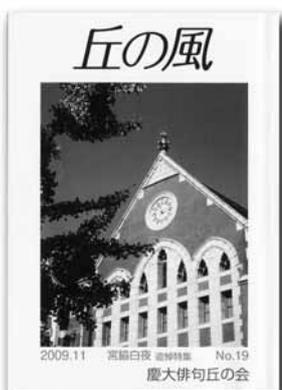
副会長・指導

大輪靖宏さま

(神奈川県・鎌倉市在住)

平成2年、同じ大学に学んだという縁で発足した超結社「慶大俳句丘の会」は昭和22年創設の「慶大俳句研究会」を母体としています。5月20日、三田の大学に程近い「港勤労福祉会館」で開催された句会にお邪魔してまいりました。奇数月開催のため、前回3月は東日本大震災の余波で中止に。当日は昨年来6ヶ月ぶりの顔合わせということで、24名の方が参集されました。

最初に、4月29日に急逝された4代目会長村上有秋さまの御霊に黙祷、ご冥福をお祈りしました。続いて星野仁一事務局長よりご挨拶。「これは4月21日付の村上会長のハガキです。『出席』のご連絡と『ご苦勞様、次回の会場確保もよろしく』とあり、亡くなる直前まで句会会場の確保を心配しておられたようです。先日、次回会場の予約抽選会に、このハガキを『お守り』として携行したおかげで無事会場を確保



▲年1回発行の機関誌「丘の風」

できました」とのエピソードを披露し、故人を偲びました。

当季雑詠4句出句の5句選。コピーが配られるわけではなく、順次回ってくる清記用紙を速やかに精読し、瞬時に選句をするスタイルのため、不肖木戸は96句を必死に書き写すことのみで終始。選句の際、汚すぎて読めない。

披講は鷹崎由未子さんと望月哲土さんのお二方。入選各句について、その句を選んだ方お一人が感想を述べ、続いて大輪さまが講評をし進行する。

侏儒の声する紫陽花の毬の中 裏

評／しゃれた比喩だと感心した。紫陽花の毬はいつ見てもロマンというか、憂いというか、毬の中に何やら秘密が隠されているのではないかと、印象を持つ。小人の声がする、という表現がおもしろい。

大輪／童話的な句、毬の中に耳を寄せて中からの声を聞いてみたいような気がする。「侏儒」がお見事。

目高樓む池少年の秘密基地 哲土

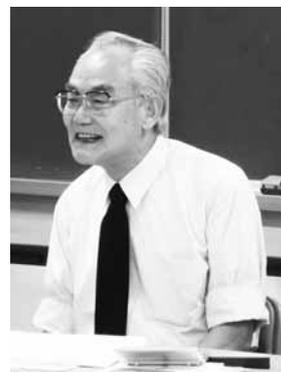
評／自分だけが知る秘密基地の池、少年の純粋さもうかがえる。

大輪／男の子は秘密基地を持ちたがるもの、目高のいる池とはうらやましい。

山男逝きて卵の花腐しかな 与志生

評／五月雨の季節なのか、自分も山男であろう男の涙が卵の花腐しによく出ている。

大輪／卵の花はなんとなく鬱陶しい、暗い、沈痛な感じのする花で、そのさびしげな感じが追悼句に合っている。



▲指導にあたる上智大学名誉教授大輪靖宏さま

あなたの隣予約しましたソーダ水 由未子 評／感動でジンとした、私にはできない句。ソーダ水じゃないですがウツときました(笑)。

大輪／ソーダ水はすがすがしい飲み物、淡い爽やかな恋の印象、雰囲気を感じられる。

滝仰ぐ先師の背中拜すこと 愛三

評／滝を仰ぐ格好は師を拜むこと、と詠んだところが珍しくて良かった。

大輪／滝は正面とはいっても人間に例えると背中みたいところがある。先師を後ろから拜むところに師を尊重する気持ちが表れている。

作者／これは慶大俳句の初代会長清崎敏郎氏を想つての句。先生には「滝落としたり落としたり落としたり」の句があり、背中も広かった。

恋猫の大王町より鍛冶町へ 裏

評／大王町より鍛冶町へ、という地名の取り方がいい。私も鍛冶町のあたりを放浪したことあるので、恋猫じゃないけど私の句だなと思っていた(笑)。

大輪／大王と鍛冶は関連がある。宝井其角に「京町の猫通ひけり揚屋町」という句があり、多少類似の感もあるが、この句は恋とは関係なく実務的で殺風景で、でも俳味があつておもしろい。

充実といふ語五月の森にあり 靖宏 評／毎朝、大磯運動公園に犬の散歩に行きますが、今まさに至る所が万緑の中。

大輪／私の句ですが、ちよつと理屈っぽいかな。

母の日や無言で飾る卓の花 仁一

評／母を亡くし、母の日はさみしい日。どういふお立場、お気持ちかわかりませんが、自分と重なる部分があつて。

大輪／無言で飾る、というところに控え目でありながら感謝の気持ちが出てくる。キヤーカー言いながら飾つたのでは気持ちが伝わらない。

作者／いろいろと嫁と姑の問題もありまして(笑)。

連翹や取るに足りないかくしごと 鶴磨 評／私は俳句を始めて日が浅いですが、久保田万太郎やこういう句は好きだなと思つていただいた。

大輪／連翹の華やかな黄色を見ていると、私の隠し事なんて取るに足らないことなんだなーと。

ぼうたんの崩れて汽笛遠ざかる 壺春 評／花の王である牡丹が優雅に崩れていく、そこに甲鐘のごとく汽笛が響いて非常にいい。

大輪／牡丹は大きな崩れ方をする。

あなたも汽笛が崩していったような印象を与



▲事務局長 星野仁一さまは元応援指導部

笑顔礼讚西東

える表現。
 そそくさと消ゆ居候守宮氏 尚志
 評／私も家の中で時々ヤモリさんと出会おう。「お会いする」という感じがよく出ている。

大輪／氏を使っているのは、ある意味親しみを持った表現で、少し不気味な感じと親しみのその両方が感じられる。
 一群の鶉たむらの屯とむらする立夏かな 与志生
 評／鶉と立夏で季重なりに見えるが鶉は一年中いる。視覚的に鮮明でリズムもよく好きな句。

大輪／確かに鶉は岩や木に屯しており、いかにも立夏らしい景がよく出ている。
 癒えし眼に歳時記開く五月かな 竟閑
 評／5月の季節が活かしている。5、6年前に私も両目白内障の手術をした。その時のことを思い起こすとまさに客観写生でいいなと(笑)。

大輪／5月は明るい季節。目が健康な形に復して世の中が明るく見えた。そこで開いたのが歳時記ということ、一層季節感が感じられる。

氣の所為と揺れ確かむる金魚玉 哲太
 評／余震の続くこの頃の生活の一場面。ふつと見て、揺れているな...ということ、金魚玉をもってきたところがお手柄。

大輪／揺れているような、いないような。金魚玉、わかるような気がする。
 春風の顔になりきっている遺影 哲士
 評／会長の追悼句。遺影のお顔が本当に優しい、見るものをホッとさせるようなお顔だった。嫌なこともすべてなくなり旅立たれたのだろう、その感じがよく出ている。

大輪／春の風になりきっている、というところに穏やかな幸せ、大往生とい

う感じが出ている。
 薔薇画きて棘にも分かつ花の色 由未子
 評／薔薇には棘にもちよつと色がある。そこを書いているのがお見事。
 大輪／棘の色の美しさを、花の色を分かつた色、と表現したところがいい。



▲和やかで感じのよいばかりでした

■予定終了時間ぴったりの進行と、簡にして要を得た丁寧で前向きにさせる講評は、さすが先生！ 本月初参加の方もいらしたが、そこは同じ釜の飯を食べた朋輩、何ら障壁もなくたちまちウエルカム。地域密着の会もよし、全国にまたがる会もよし。そして、慶應の三色旗のもと、老若男女が余計な社交辞令一切なし、○年○学部卒の挨拶だけでツーカーの仲になれる、こんな寄港地のような句会も実にまたよし、なのでした。(木戸敦子)

新潟日報文芸選者に学ぼう in 寺泊

黒田杏子さま 中原道夫さま (新潟県・長岡市)

5月28日、新潟県長岡市の寺泊文化センター「はまなす」において「新潟日報文芸選者に学ぼう in 寺泊 第十回記念大会」が開催されました。いつもは紙上でしかお目にかかれぬお二人が、事前に投句された230句を直に選評やアドバイスをするとあつて、当日は約100名の方が参加。サブタイトルである「黒田先生・中原先生による夢のコラボレーション」はいかに！

まずは午前の中原さまの部より
 茶の友とまだあるような小春かな

まつていて、作品として小ぶり。こういう日常を詠んだ句は多いが、毎週15枚ぐらいしか選べないので割を食う。その辺は工夫していくことが大事。

どうみても掴みどころのなき海鼠

海鼠と書いて「こ」と読んでいたが、生で食べられるということ、なまこになつた。掴みどころがないわけではない、掴んで俎板の上に乗せるんだから(笑)。ちよつと掴みたくないという気持ち、掴みどころがないと断定し、言い換えた面白さ。

大鍋に煮崩る、ほど鯛大根

鯛のアラを全部余すところなく使うわけで大鍋になるだろうなあ、と察しがつく。もうひとひねりという部分と、いやここで止めておこうという、親切な

自分と不親切な自分がせめぎ合う。俳句はどちらかというと不親切な人の方がいい。人がよすぎて、季語の説明をしてしまうような親切さは不要。
 嘶きも脳裡にありぬ厩出し

「厩出し」とは、馬小屋に渡した馬柵ません棒という横木を外し、冬の間、厩で飼っていた牛馬を野に放つこと。私あたりが知っているギリギリの世代では。すべて機械がやってくれるような時代だが、良いものはやっぱり良いとしないと農事季語がなくなってしまう。新潟は農事季語の宝庫。残る残らないは時間が決めることとして、覚えている方は出来るだけ思い出して作っていただきたい。遅すぎた農業対策山笑う

「笑う」は英語でいうと「ラフィン」。カラカラと高らかに笑うという字がついているため、嘲り笑うなどというときに「山笑う」と使う人が多いがこれはダメ。冬の季語「山眠る」に対し、山が芽吹き活気付いてきたという意味であつて、ケラケラ笑うという意味で作らないよう注意しましょう。

感歎しつつイテの菊花展

千鳥が浜辺で波に追われるとツツツと逃げて立ち止まって、またツツツという、あの姿が「イテ」。菊花展で「おおこれは県知事賞か、なるほど」と佇み、そ



▲新潟県岩室村出身「銀化」主宰の中原道夫さま



▲東京都出身「藍生」主宰の
黒田杏子さま

れからタタタと2、3歩行き「これは賞に入つてないけど、先程と変わらないように見える」と思いながらまたツツツと、「イテ」がうまいところに使われている。言葉は大本の意味はもちろん、それをどう転用するかも腕の見せ所。
淋しさは石路咲くころの海のいろ

石路の咲く頃は花のない季節。こ寺泊の海岸端には鮮やかに咲く。その頃の海の色といつており、黄色だとかは一切言っていない。海と石路の色を自ずと句の中で対比させ、うまく考えられている。

細枝の侘助そつと手で包む

侘助は木瓜かと思うくらい小さいものがあるが、「細枝」まで言うかどうか。そこは想像させましょう。そつと包む手の感触、または侘助の温度があるとすれば、そちらを書いたほうがいい。

その季節を過ぎないと作品ができないといつことで、カンカン照りの夏に桜の句が出てきたりする。投句する際は、現在、もしくは少し近未来を詠み、戻った季のものを出さないようにお願いしたい。
毎週月曜日、楽しみに新潟日報を開き出していないと「中原始生、うちのお父さん一週間は機嫌がもつので、ぜひ採ってください」などと言われる。私として

も家庭円満、ぜひとも採りたいが、やはり全体のトーンとして、新潟日報の水準は高いといつところをキープしたい。その結果、似たような顔ぶれになることは気になつている。どんどん新しい人を載せたいので、一回出なかったからやめた、ではなく頑張つて出し続けていただきたい。

続いて昼食をはさみ午後の部の黒田さまへバトンタッチ

新蕎麦に常温一合あればよし

常温の酒はいいですね。早稲田の名誉教授だった暉峻康隆氏が3J、つまり「上等の酒を常温で上品に飲んでくれ」という言葉を私に残してくれた。上等な酒なら常温で美味しい。上品というのはただ酒を飲むなと言うこと。ただ酒ばかりせびつている人は、とても見られた顔じゃないよと仰つて……ということ、それを守っている。

手を掛けぬ庭に佇み春深し

あるがままにしている自分の庭、そんな手を掛けない庭に佇んでいると春が深いといつことを感じると。何でもないようだが、印象に残つた。

冬の朝ひとすじの陽に心湧く

上手い下手ではなく、作者の心情がよく出ている。特に雪国や北の日本海側の人は一筋の陽、陽矢に心が湧き立つといつこと。南の方ではあまりこつこつことは言わない。冬の朝をしみじみと実感して、心が湧くといつたのは言い過ぎではないと思う。

ひたむきに降りつむ雪の恐さかな

実感を持つていなければ詠めない句。新潟日報に投句される様々な職業、年

齢の方の句を18年ほど選句してきたことで、学ぶことが多く鍛えられた。もし選者をする事なく、自分の句だけ作つていたら今日の私はないと思う。
雪の壁一尺縮めて昼ちかし

「てはいらないと中原さんが仰つたがその通り。字余りにしなければならぬ必然性があればいいが、俳句には世界最短の詩形という17音字のすばらしい恵みがある。その中に季語という日本人の暮しが凝縮された言葉があり、著作権がないから370年も前に芭蕉が使つた「天の川」の季語を私たちがただで使える。それを思うと、季語にその作者の魂を吹き込んで初めてその人の句になる。季語そのものに作者がもつと感動して、そこを核に詠まないといつまで経つてもどこかで見たとような駄句になる。

越後路の小さき漁場も夏めきし

「○○路」と「路」をつけると観光ポスターになるからやめた方がいい。越後路でなくていいし、この場合「越後この小さき漁場も夏めきし」で十分。他にもいろんな表現がある。

しずり雪竹林の黙解きにけり

よくわかるが、こつこつという形で作つていくと「竹林の黙」と理屈っぽくなる。あまり頭を使わず、もつと胸の底の方から湧いてくる気持ちを言葉にした方がいい。



▲寺泊の漁港にあるお二人の句碑
上が黒田さま 下が中原さま

佐渡沖の寒鯛をまずせり落とす

私はとても好きな句。誰か他の人がせり落としたりを描写しているわけではなく、自分がせり落とさなければこんな勢いのある句はできない。上手い下手以上に、その人の職業や人生から生まれてくる句で、他の人には絶対つけれない。

明治29年、正岡子規は死者2万7千人の三陸沖津波を「五月雨は人の涙と思ふべし」と詠んだ。この一句の強さはすごい。ただ震災の句を詠めばいいといつことではないが、俳人としてできるのやはり語り部として詠むこと。

私自身も、今回の震災を受け自分が出来ることは何だろうと考えた時、残る命を俳句を作ること、選句をすることにかけたと思つた。この機会に生まれ変わり、もう一度自分の句をたたきなおし、いい句を作っていくこと。何年かやつていると五・七・五なんて適当にでき、情性になつてくる。お互いに、ご自分の句を、ご自分の魂をこめた句を作つていきます。私も全力をあげて選句をします。どうぞよろしくお願ひします。

■4月に俳壇の最高賞である「蛇笏賞」を受賞したばかりの黒田さま、当日、還暦のお誕生日を迎え4月には第十句集「天鼠」を出された中原さま。お二人の並々ならぬ使命感と秘めたる情熱、そして今は通過点であり常に新境地に挑む旺盛な創作力はまさに夢のコラボレーション。当のご本人は意図しなくても、その想いを聞いているだけで性根を据えられる思いでした。（木戸敦子）

三上政雄さま

(東京都・三鷹市)

昨年12月、様々なエピソードをまとめたエッセイ集『おやおや』を出版された現役の歯科医師、三上政雄さまをお訪ねしました。

■昔から書きためていたのですか？

じつとして本を読むのは得意ではなく、活動するのが好きなタイプ。まして書くなどということは一切なかった。大学を卒業後、武蔵野赤十字病院の口腔外科に入局したが、その4ヶ月後、25歳の時に急性腎炎に。当時は人工透析が最先端でブームだったが、出張で診てくれた東大出の内科学部長であり、看護大学の教授が「それはならん」と担当医に進言し強引に透析を阻止した。まだ若いのに、安易に透析をしたら一生し続けなければならぬと、私の行く末を考えてくれたんですね。

■いい先生と出会いましたね

6ヶ月は絶対安静ということで寝たきりの状態。この先生は「医者はずい患者を上から見がち。ここで患者としてしっかり勉強しろ」と言い、研修と称して「三上君はこの職員だから何をしてもいい」と看護大学の若い生徒をたくさん連れてくる。丸裸にされ、蒸したオルで体をこすられ、寝た状態で歯を磨かれた。こうしたらもっと磨きやすくなるのとか、痛いけれど看護婦さんに言いにくいなあ、と患者の心理を学んだ。階下では同僚が忙しく働いているのに、自分はベッドの上で恥も外聞もなくされるがまま。焦りはするものの他にすることもなく、司馬遼太郎、柴田錬三郎、藤沢周平…と次々と本を読んだ。病室に読み終えた本が並び、一時、読み過ぎと禁止令が出たほど。それが本との出会いだった。

■それ以来書き始めた？

いえ、まだまだ(笑)。退院後5年間その病院に勤め、29歳で結婚し30歳で開業。妻には「ラブレター」一つ書かない」と、筆まめの妻の姉のご主人と比較されたくらい全く書かない男だった(笑)。開業当初は一日に1〜2人の診療だったが、翌年からは口コミで多くの方が来院。患者さんには今歯はどうなつていて、これからどう治療するのかを丁寧に説明する。この姿勢は、患者体験があつたからかもしれない。

46歳のとき、直腸がんになったが、その時に「このままではくたばれない」と思った。金銭的なこともあつたが、このままくたばつたら寂しいな〜と。

何かを残すということではなく、また家族とも別の問題で、自分で何かをしたいと思つた。その正体がわからぬまま、病後は外出も旅行もままならず家でモヤモヤとしていた。

■そしてついにその正体が……!?

ある日、歯科医師会の月報を見ていたら、型通りの巻頭言に理事会報告。広報担当におもしろくないな〜と伝えると「なんとかなります?」と聞いてきた。言つた手前書かないわけにもいかず、それが書く始まりとなった。その時①著者がわからないように②会員の誰のことを書いたかわからないように③会の中で起こっているエピソードを絡ませて書くかと思つた。自分たちのことを書いてあるが書いた人がわからない、と話題になり、会員の目を月報に向けてのに一役買った。その時の反響が原動力となり「筆者不詳シリーズ」は以来約10年続いている。

■そこでどんどん腕を上げた？

しよせんは素人。活字になると、気になることが多く少しでもステップアップ



▲「おもしろい!」と購入してくれる患者さんも多く売上は義援金にあてている。

プしたいと月に2回エッセイ教室に通い始めた。先生は元新聞記者なので様々なことを知つていて、視野を広げ書きつけかけを与えてくれる。さすがにもう句読点のうち方などは指摘されなくなつたが(笑)、実に楽しくこれも10年弱通つている。

今はシニアパソコン教室にも通い、原稿をパソコンに入力している。一つ一つ、知らないことを知るのには本当に楽しい。2月に循環器科で心室性期外収縮の手術をしたが、深刻に考へてはいない。恥ずかしさがなくなつたのは病気のおかげで、病気をしたからこそ書ける。例えば、大腸がんで排泄がうまくいかない時にゴルフ場でトイレに行きたくなつたかどうか? 野グソしかない、それがエッセイになる。だから闘病記として深刻に書くより、客観的に見て笑つちゃうよね、というものを拾いたい。今後も気負いなく、好きなジャズ音楽のことを文章に取り入れたいしながら書いてみたい。

★長身をジーンズとブーツに包み颯爽とした出で立ちの三上さま。地元の喫茶店で大腸がんの下の話や失敗談を大声で笑い飛ばし、聞こえやしないかとキョロキョロする私に比し実に楽しそう。何ものにもとらわれず、ノーガード。負と見られがちな病が、新たな三上カラーを成している。おおらかに、屈託なく、楽しく進める歩み。今日も三鷹の診療室では新たなエピソードが生まれていることだろう。

(木戸敦子)



▶「おやおや」は「愉快な仲間たち」にぎやかな診療室「カミさんは元気!」の3章からなる。

投稿作品

※今月も、沢山のすばらしい作品を投稿していただきました。今後も、みなさまの投稿をお待ちしております。次回掲載分は7月15日(金)締切です。

短歌

- 1 本棚より母の揮毫の額落ちて大地震ぞ驚かさるる 今井忠一(東京都)
- 2 来し方は語らぬ方がよろしくて憂き世と書いて日記綴りけむ 小笠原紗恵子(神奈川県)
- 3 横須賀の港に軍艦無くなりてあまた小舟が漁るを夢む 椎忠夫(神奈川県)
- 4 医師の甥逝きて恃めなきわが余生ただ消極的に生きるほか無し 木暮珣子(群馬県)
- 5 晴れの日に拭きし窓より葉を揺らし行く風の道あざやかに見ゆ 直江秋子(新潟県)
- 6 三色の鞆の中に未来がある児等よげんきに登校してくれ 藤原昭三(滋賀県)
- 7 被災地に降りつもる雪映し出すテレビ消したりただせつなくて 佐々木都(長野県)
- 8 待つことの長き東大発表日じいちゃんあつたと孫弾む声 野木宗信(奈良県)
- 9 亡き父の墓石に参りぐびぐびと新酒を注ぐ彼岸中日 櫻井文子(東京都)

- 10 夢に出づ波に吞まれし児等の霊「おばさん遊んで遊んで」と 宇都宮萬里(静岡県)
- 11 液状化砂に散り行く櫻花余震気にし言葉掛けれず 齋藤忠弘(千葉県)
- 12 絶対安全のはづ原発の国・東電のいままでの嘘 黒澤正行(福島県)
- 13 気分よし倅とヒザ折り酒を酌み先の夢など語りし夜は 辻忠城(東京都)
- 14 東日本巨大震災痛ましき神よ仏よ何処におわす 山本敏順(長野県)
- 15 けざやかに夕日受けたる梅の花少し冷たき香り放ちて高橋邦子(高知県)
- 16 復興するとまた地震復興するとまた地震のこれからの日本の百年 梅澤鳳舞(埼玉県)
- 17 やわらかき黒土すくえば掌に終の住処のごときぬくもり 寒川靖子(香川県)
- 18 棚曳ける雲も家路の児童らも黄金に鍍して神巨りゆく 鈴木清美(愛知県)
- 19 京土産・最後の一粒「カラコロン」和服も似合ふ淑女の下駄音 西山悌三郎(高知県)
- 20 悠久の天の歩みにつかれたる雁の一連かがやき渡る 北岡晃(兵庫県)
- 21 折からの風に舞い散るさくら道さくらじゅうたんひきしめし」と 田邊美代子(三重県)
- 22 東日本風花舞い散る港町般若心經響いて止まず 阿部澄江(宮城県)
- 23 嵐ざり桜舞ひ散る東日本ただ折るのみいと安けくと 阿部徳夫(宮城県)
- 24 片しては余震が崩す繰返し賽の河原の石のごとくに 原しの(福島県)
- 25 大震災東日本がなばれと祈りを込めて三ヶ所の寄附 高須孝(愛知県)

- 26 平然と主治医は告げぬ正常な検査値でさへただの目安と 秩父豊仙(神奈川県)
- 27 理由なく消したい程の人生も笑顔ばかりで生きて行き度い 吉野成行(愛知県)
- 28 放射能終りなく飛ぶガレキ地に立ちて幼な児連れて泣くだけの老 村岡盛英(群馬県)
- 29 震災に負けぬ姿は東北の人々我ら日本への誇り 渡辺勇治(埼玉県)
- 30 泥の手がしわ深き手が見つけたる写真をぬぐうがれきの中で 桑原謙一(群馬県)
- 31 リアルなり3・11以前以後ビルもクルマも異なりてみゆ 篠原三郎(静岡県)
- 32 平穏といふ日々の命の尊さよ被災地想い胸つぶさるる 早川モトエ(新潟県)
- 33 雨風に目ざめてみれば未だ暗し地震もありて妻が声あぐ 小島秀雄(福島県)
- 34 廃線で消えたる駅に蕎麦の花その真ん中に師の歌碑のこころ 久保和友(滋賀県)
- 35 被災地に安堵の時の早こと祈りをこめて千羽鶴折る 田中豊恵(新潟県)
- 36 思い出を津波が奪いつらからういじけちやだめよせつかくだから 野中よしみ(神奈川県)
- 37 特選のお礼に届く紫蘇巻を夕餉の膳に家族で賞味 佐藤古城(埼玉県)
- 38 しゃくなげの室生の里のみ仏は慈愛に満ちてわれを諭せり 岩崎令子(大阪府)
- 39 前庭の木更木瓜咲き庭先に春を確かみに吾に知らしむ 小暮昭司(群馬県)
- 40 煙なりし義母や空浮き雨泣かせ花笑み満たし夕陽色つけ 濱田深雪(新潟県)

川柳

- 41 スカイツリー・青梅の山より写したる大きな写真義兄は自慢げに 浜野タミ(東京都)
- 42 絶対の文字も言葉もゆるぎなき「安全」神話崩れし原筈 吉澤八千代(群馬県)
- 43 下手な嘘見抜いて啜うパンの耳 金田芳男(新潟県)
- 44 生活が荒れていますね冷蔵庫 丸山芳夫(東京都)
- 45 分身の影も肥満爺山笑ふ 山東爺(北海道)
- 46 活きのよい鰻を捌いて酒に酔う 花香規子(群馬県)
- 47 先づ並び何の列かと聞くこ仁 石原学(群馬県)
- 48 愛の手品師もつれた綾をほぐす 松田重信(埼玉県)
- 49 政金と政治が断ち切れず 羽田桐柳(群馬県)
- 50 とても手が出んから口だけ数えとく 大江秋月(兵庫県)
- 51 まわり道しながら心広くなり 守屋高雄(岩手県)
- 52 大型車群馬のかき菜山と積み 青木日出男(群馬県)
- 53 とつとつ話に耳も腰も浮き 田澤宏(新潟県)
- 54 シャボン玉飛ばして孤独癒やす春 大岩歌子(岡山県)
- 55 お茶席に招かれ正座足しびれ 原田英一(千葉県)
- 56 パソコンもI・フォンもなく生きている 布目雅之(埼玉県)
- 57 日本が良くなるはずの選挙前 岡本恵(茨城県)

- 58 関東と関西ヘルツ統一を
大川聡(新潟県)
- 59 一人芝居源氏名のまま離婚して
諏訪杜夫(埼玉県)
- 60 ありがとうと言える夫婦にある節度
藤沢健二(千葉県)
- 61 老々の介護いずれは共倒れ
桑原清風(群馬県)
- 62 吾がふりを海にきいては夕日見る
大橋絵代(千葉県)
- 63 お雛さま飾れば我が家も文化財
工藤昌見(山形県)
- 64 キオスクで旅のお供に酒を買う
近藤はつみ(福岡県)
- 65 母の忌に母困らせたこと思う
小山恵美子(大阪府)
- 66 好きな色人によつては大違ひ
松田義登(福岡県)
- 67 ハイテクの巨塔あまりに無残すぎ
塚本良子(愛知県)
- 68 晴れ渡る大空とするハイタツチ
黒田るみ子(徳島県)
- 69 土砂降りの人生だけで晴れもある
高柳閑雲(愛知県)
- 70 なべ囲み和解の具材食へてみる
鈴木義雄(福島県)
- 71 地震の地核前線黙禱す
奥那於子(大阪府)
- 72 紙一重生きてる今にする感謝
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 73 意地を張つてる本当は忘れてる
安部龍太(山梨県)
- 74 指切りのために待たせてある小指
北村純一(神奈川県)
- 75 佐保姫に今年も逢えた喜寿ひとり
久本にい地(岡山県)
- 76 演歌好き唄い手もよし歌詩もよし
奈倉楽甫(愛知県)

- 77 猫じゃらし赤ん坊にも振つて見せ
鈴木青古(茨城県)
- 78 身に沁みる子に婿嫁のありがたき
藤井北灯(福岡県)
- 79 二人して木洩れ陽の道ゆつくりと
中林恵子(大阪府)
- 80 色あせたジーンズ脚を長く見せ
山崎一嘉(愛媛県)
- 81 古い二人人口数減つた古炬燵
諸橋文男(新潟県)
- 82 妻低気圧我れ二階へと即避難
鈴木あきら(新潟県)
- 83 東北のスカイツリーだ松一本
北川とこ(新潟県)
- 84 被災地へ何も出来ないもどかしさ
中島久光(岩手県)
- 85 今日の日を生ききることの重さ知る
小川よう子(大阪府)
- 86 特売品いつもおいしいねと俺に言ふ
北野耕兵(千葉県)
- 87 時々スリルがないと生きらられぬ
石山幸枝(新潟県)

俳句



- 88 どこまでが生きる証しか春あかつき
早乙女文子(埼玉県)
- 89 大震災日本国中凍りつく
岡弘子(埼玉県)
- 90 春の雪瓦礫の陰で主を待つ
磯山陽吉(東京都)
- 91 プロ野球開幕の日に桜咲く
大橋恒次(新潟県)
- 92 出来ることは募金しかなし青嵐
井原穂子(東京都)
- 93 陽足伸び飲み屋開店早まりて
中川平治(東京都)
- 94 地震恨みかたまつて生き春を待つ
水落重式(新潟県)
- 95 春耕や子に残すべきこの山河
渡辺茫子(千葉県)
- 96 シスターのロザリオ白し青嵐
津田忠彦(岡山県)
- 97 桜桃忌大宰文学うら悲し
伊藤修敬(三重県)
- 98 逝く人を凜と見送る初つばめ
中嶋清子(佐賀県)
- 99 スカイツリー伸び極まりて春の虹
松嶋光秋(東京都)
- 100 ふらこやグッバイと言ひ振り向かず
美濃部紘三(新潟県)
- 101 菜種梅雨母の繰り言二度三度
三ツ木宗一(東京都)
- 102 蛍火の間に浮かぶ妣の面
星野三興(新潟県)
- 103 累卵の暮しまさまざ春の地震
大阿久雅子(東京都)
- 104 TSUNAMIとは世界に通つ春のこゑ
内河邦久(東京都)
- 105 横顔を似顔絵にして春炬燵
神一男(静岡県)
- 106 置土産襖に残す竹の秋
川崎洋吉(福岡県)
- 107 国難の闇に出番の湯婆かな
三津木俊幸(千葉県)
- 108 震災の友へは出せぬ花だより
佐藤茂三郎(千葉県)
- 109 震災の復興遅々と春愁ふ
山本松柏(三重県)
- 110 どこまでもきらきら光る夏の家
高松愛(神奈川県)
- 111 D51もすべり台有り花埃
福田和子(東京都)
- 112 端山はや来鳴きとよもすほととぎす
池本勇(大阪府)
- 113 紫陽花の雫新たに夫偲ぶ
長谷部喜代子(大阪府)

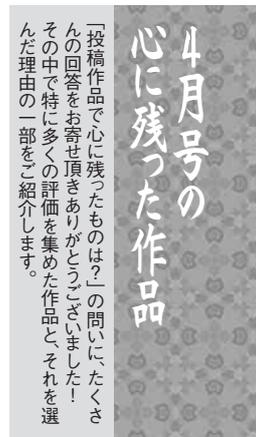
- 114 漆黒の海に煌く螢鳥賊
大竹憲弥(新潟県)
- 115 春の月その切先に繩を吊る
辻升人(東京都)
- 116 春なのに余震に怯え身が縮む
佐藤佑子(福島県)
- 117 花万朶むかし日の丸振りし駅
吉村筑紫(埼玉県)
- 118 春鷗瓦礫の浜に來れかし
小林隼美(山形県)
- 119 コーヒーはひとつの麻葉さくらとき
鈴木岑夫(千葉県)
- 120 故郷は海に流れてつばくらめ
井上静夫(栃木県)
- 121 安曇野は残雪の岳なつかしく
須澤重雄(長野県)
- 122 地球より水はこぼれず隴月
関根瑤華(東京都)
- 123 生きてゐて防空壕の春思ふ
早矢仕邦夫(愛知県)
- 124 照らされし菜の花明日も幸ならむ
河合ヤスエ(大阪府)
- 125 花めでて水琴窟の古民家へ
佐伯セツ子(香川県)
- 126 紫陽花や喜怒哀楽の七変化
橋本世紀男(東京都)
- 127 余震尚いざと構えて春寒し
高橋まさ子(宮城県)
- 128 薬に明日の力を貰ひけり
堅田秀子(東京都)
- 129 白南風や賽の河原の風車
百花清(埼玉県)
- 130 宮の道桜の国のさくら咲く
忍正志(兵庫県)
- 131 春炬燵句繕争論思ひ合ふ
油谷郷史(兵庫県)
- 132 柳絮とぶ恋の釣橋すこし揺れ
関谷秀二(愛知県)

- 133 風いまだ頬に冷たし夕桜
佐瀬チエ子(神奈川県)
- 134 院内の花散りてより訃報着く
小井寒九郎(三重県)
- 135 散る舞のつねならざりし花吹雪
坂本正夫(千葉県)
- 136 海鳴りの町の朝市よもぎ餅
鈴木清子(埼玉県)
- 137 桜餅句談義はずむ古稀の友
大場きよし(宮城県)
- 138 ランドセルかたかたしゃべる入学児
千代田俳徒(東京都)
- 139 残る白鳥人の目をして北を見る
石井美智子(埼玉県)
- 140 待ち侘びし義母の米寿や藤の花
中野博夫(埼玉県)
- 141 かたまつて子雀の降る日向かな
高松ゆか(神奈川県)
- 142 新樹光心の中迄見ゆること
柳澤京子(宮城県)
- 143 被災地のカリヨン響け聖五月
古谷力(東京都)
- 144 こころして北の痛みへ花吹雪
中山日出子(大阪府)
- 145 一瞬の惨劇のごと落椿
鏡たか子(山形県)
- 146 祥月の母を偲ぶや別れ雪
柴田恵美子(北海道)
- 147 梅雨深く街路に立てる僧侶かな
齊藤安弘(神奈川県)
- 148 被災孤児和み異郷に入学す
山本光胤(大阪府)
- 149 全開の窓ドドドド春の海
五十嵐睦博(新潟県)
- 150 人声をのせて波打つポーピーカー
大谷伊佐男(埼玉県)
- 151 揚雲雀自己陶醉に在ること
佐野和彦(静岡県)
- 152 春服に訛の弾む駅舎かな
小野正光(宮城県)
- 153 沖縄忌近づく鎮むかけまくも
福岡 悟(東京都)
- 154 阿弥陀堂あるやも知れぬ落し文
名取美枝子(千葉県)
- 155 原発の戦き消えぬ早苗かな
加用文美(千葉県)
- 156 佇めば母の丸き背花吹雪
大久保アヤ子(東京都)
- 157 波高き曲つたままの春湊
浦橋渴雪(兵庫県)
- 158 福寿草古木の土を押し上げて
富樫和子(山形県)
- 159 地震の地の復興祈る花一枝
須田洋子(埼玉県)
- 160 度々に余震のある日土筆摘む
副島加代子(宮城県)
- 161 山また山里へ里へと若葉風
長谷川ふさを(新潟県)
- 162 朝市の秤を零れ螢鳥賊
川口襄(埼玉県)
- 163 春満月恐るるものなかりけり
岩村昇(神奈川県)
- 164 走り根につまずく齡花吹雪
村上千代(大阪府)
- 165 原発や無人の公園桜満開
佐野しづ子(愛知県)
- 166 遠き友杖たずさえて春連れ来
山田幸代(兵庫県)
- 167 昭和の闇こえて老ひけり花月夜
増本和子(千葉県)
- 168 余震なほ続く蛙の目借時
渡辺嘉幸(東京都)
- 169 青々と銀座の柳生き残る
堀井酔人(茨城県)
- 170 片割れの一つは沖へ桜貝
吉村充治(埼玉県)
- 171 辛夷咲く再建句碑の処得て
吉田未灰(群馬県)
- 172 余震走る野辺に肩寄せふきのとう
沢田稲花(山形県)
- 173 慟哭の町を見下ろす芽吹山
小野寺裕子(宮城県)
- 174 春告鳥被災地からのお知らせ
安木沢修風(新潟県)
- 175 月おぼろ川音ばかり惨禍かな
浜田蛙城(静岡県)
- 176 てふてふと書けば優雅な蝶になる
萬濃その子(千葉県)
- 177 天災と言へども酷き春終る
羽根田明(神奈川県)
- 178 花冷が心の中を通りぬけ
青木ケン子(埼玉県)
- 179 春灯や防災頭巾縫ひ急ぐ
紺谷睡花(東京都)
- 180 春風に自転車漕ぐもベアルック
居原田連星(大阪府)
- 181 一隅の残雪今朝の雨に消ゆ
梶鴻風(北海道)
- 182 体内時計地震に狂わず雁帰る
田島星景子(宮城県)
- 183 ケイタイの待ち受けで酔う花見かな
平賀田鶴子(愛知県)
- 184 平成の春眠醒ます大震災
藤沢樹村(東京都)
- 185 雪今日も降るや高峰秀子逝く
湯浅芳郎(岡山県)
- 186 旅に病む句碑の足元すみれ草
炭崎博(滋賀県)
- 187 天馳ける夢有り子らのゴム風船
竹本美美子(新潟県)
- 188 春の月上げてさみしき被災の地
本間七窪子(山形県)
- 189 旅らしき旅にも出でず夏近し
宇田川正雄(埼玉県)
- 190 ゆく春やみちのくの人厳しかる
延原令岱(岡山県)
- 191 蟻明日へつなぐ命の列歩く
乾久子(滋賀県)
- 192 被災の児比の世で泳ぐ鯉のぼり
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 193 想定外地震原発春惨状
栗原黎(群馬県)
- 194 ふる里や古木となりし山桜
西口東治(大阪府)
- 195 かすかなる風に鈴振る花馬酔木
清まさじ(静岡県)
- 196 孵卵器が母なる雛も巣立ち行く
濱田イサオ(福岡県)
- 197 期待かけ好きな花種時きにけり
佐藤よしと(北海道)
- 198 被災地へ思いの篤し春の月
堀木和子(大阪府)
- 199 髪の毛のまだ伸びきらず卒業す
江端秀子(愛知県)
- 200 放哉忌じごと山見る空を見る
田中昶(鳥取県)
- 201 アルバムは生きたる証花薊
檜山とり子(東京都)
- 202 人恋し地揺れのつづく春の闇
林多み子(群馬県)
- 203 町角で子らの挨拶春の朝
杉村美保子(岩手県)
- 204 さくら散る闇に天女を浮かべせて
長尾俊彦(香川県)
- 205 原発の安全神話しゃぼん玉
望月哲土(東京都)
- 206 約束は駅の改札風光る
神作洸江(埼玉県)
- 207 強震に怯え避難の春闇路
有坂馨園(福島県)
- 208 復旧の望めぬ命花の冷
小林七重(新潟県)

- 209 グランドに深き礼して卒業す
岩永登茂子(大阪府)
- 210 満開を眺むしあわせ桜葉
谷川利子(愛知県)
- 211 あねもねの頼りなき茎生きぬけり
関根千恵(埼玉県)
- 212 夕月の空をひろげて白辛夷
能條憲夫(神奈川県)
- 213 陽炎とふ地球の軽い眩暈かな
有田裕子(北海道)
- 214 お花見や母と娘と犬と杖
緑川禎男(埼玉県)
- 215 ウインドウシャツさまさまに街薄暑
森ふく(千葉県)
- 216 よき人は帰らぬものと「夜と霧」
小俣英之助(大阪府)
- 217 碧空の櫻芽吹きて調へり
矢野絹枝(東京都)
- 218 春霞延えん続くガス欠車
阿部幸子(宮城県)
- 219 全身で笑う幼子風光る
藤田照代(岡山県)
- 220 花見莫塵お絵書ノート風が繰る
木村貞恵(静岡県)
- 221 父逝きて大きく成るや墓の声
杉本敬治(愛知県)
- 222 鎮守坂息弾みても春祭り
早川述史(愛知県)
- 223 芽柳の光となりて揺れ止まず
夏目満子(東京都)
- 224 父の日や父の威を張る床柱
高杉杜詩花(北海道)
- 225 啓蟄や首をもたげるふさぎ虫
竹内ハヤ子(埼玉県)
- 226 墓参り靴にまつわる春の泥
義平弘子(大阪府)
- 227 初燕声追い天を仰ぎ追
高見多和子(兵庫県)
- 228 新樹光妻で居りたきあと十年
竹澤茂子(大阪府)
- 229 春潮に油まみれの軍手かな
佐藤信(神奈川県)
- 230 震災の未知数ばかり春の雪
中野勝子(鹿児島県)
- 231 背負う児の足との握手春うらら
田中美智子(埼玉県)
- 232 よく似合ふ白ブラウスに緑の羽根
勝田久美(大阪府)
- 233 みちのくの震災いまだ桜しべ
坪田勝秀(鹿児島県)
- 234 みどり頭つ六甲山の暮なつむ
中田文子(大阪府)
- 235 鳥々が天然の盾春怒濤
青木涼子(埼玉県)
- 236 花霞薙一枚自粛する
星一子(神奈川県)
- 237 模様替え終れば春の心地かな
長峰正晴(千葉県)
- 238 雪柳欄に乱れて地を流る
木下精(大阪府)
- 239 苗木植う三年先の夢を植う
本田克夫(千葉県)
- 240 手のひらですくつてながめるさくらかな
山川幸子(東京都)
- 241 写生子の帽後ろ向き藤揺れる
山本せつ子(鹿児島県)
- 242 大震災ふるき戦禍を思ふ春
鈴木みえ(長野県)
- 243 南朝と靜に悲憤の山桜
磯部力(新潟県)
- 244 防潮の水門錆びし春湊
木田亜津子(兵庫県)
- 245 毘沙門天の声聞く朝の桜かな
今井温子(奈良県)
- 246 板壁の島の校舎や桜東風
北嶋八重(京都府)
- 247 初孫にはおずり見上げる鯉のぼり
針生清(千葉県)
- 248 花鉄線真近きものに縋りけり
川島久子(高知県)
- 249 春暁や猫につられる大あくび
濱崎祥子(鹿児島県)
- 250 梅白し君なき庭の広さかな
大下志峰(福井県)
- 251 関跡のあまたの歌碑やほととぎす
中村正博(埼玉県)
- 252 故郷に千金の夜や月朧
村松知津子(大阪府)
- 253 放射能降ると知りつゝ燕来る
菅井文男(新潟県)
- 254 木々芽吹き母は黄泉へと旅立ちぬ
佐藤源一(新潟県)
- 255 少年の踏みて五月の天城越え
津布久信雄(東京都)
- 256 山辛夷一茶のこみち奥信濃
西條公雄(埼玉県)
- 257 越後野に光り生み出す桜かな
五十嵐勝敏(新潟県)
- 258 肉体の破調はじまる夏の月
多田游(東京都)
- 259 ガレキより生きる証しの初さくら
針ヶ谷里三(東京都)
- 260 これといふ記すこと無し春の宵
北村富士雄(新潟県)
- 261 西行も遊びし杜の白椿
中森儀雄(三重県)
- 262 乳牛を手放す被災地はこべ出づ
小山たけし(埼玉県)
- 263 静かなる雨の一日牡丹の芽
山岸伊久雄(東京都)
- 264 麦畑吹奏楽の聞こえきし
山本直子(大阪府)
- 265 やませ吹く松微動せず物言わず
中野豊彦(東京都)
- 266 母の日や介護施設の窓明り
今井勝子(新潟県)
- 267 良寛の「愛語」を読み長閑なり
増田信雄(埼玉県)
- 268 春暁旅の一步の靴の音
橋本まこと(栃木県)
- 269 速やかに動かざる身や春深し
岡村君枝(茨城県)
- 270 菜の花の沖に嘉兵衛の夢実る
大窪美代子(大阪府)
- 271 母の日や思ひ出遠し子守唄
小林紀美子(東京都)
- 272 春うららお江をしのぶ佐治の城
中村和弘(愛知県)
- 273 緋牡丹に乱心という終りあり
青木絹子(群馬県)
- 274 震災地芽吹き促す嬰のこゑ
上谷すみゑ(神奈川県)
- 275 墨東へ立夏の橋を渡りけり
寺尾令子(東京都)
- 276 緩やかに漕ぎ出す渡舟夏がすみ
関口修一(群馬県)
- 277 春愁の空搔き回す風電塔
近藤美好(新潟県)
- 278 母の日に嫁は決つて養命酒
森崎榮久(岡山県)
- 279 谷に引く水のむらさき菖蒲園
木村吉子(埼玉県)
- 280 囀に目覚し朝の我家かな
春口蓮男(静岡県)
- 281 蝶々に背負いきれない空がある
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 282 昭和の日ついつい余計な口を出し
田野井一夫(栃木県)
- 283 初夏の息深深と吸ひ込めり
野原香雪(北海道)
- 284 裏庭に初音ひろひし老の耳
井口桂山(新潟県)

- 285 相生の妻と来し方おぼるなる 吉澤昌美(長野県)
- 286 たんぽぽやけんけん遊び始まりぬ 石川郁子(埼玉県)
- 287 飛行船湖越えくるや若葉風 今井久枝(神奈川県)
- 288 一輪の影の居座る立夏かな 高垣勝代(大阪府)
- 289 筍のがわりがわりと剥かれけり 伊藤みさ(静岡県)
- 290 八十路来て悔もともども振花 野中信夫(東京都)
- 291 せめてもう避難所避けよ度余震 藤井春三(埼玉県)
- 292 天地の結びあまた水温む 池田岬(埼玉県)
- 293 抜き足で植田を歩く里鴉 佐々木トモ(宮城県)
- 294 牛・馬のまたないている春の雨 井田由利子(宮城県)
- 295 浩浩と罹災の海に夏の月 野村牟人(東京都)
- 296 指定席燕囀る今年また 出井静枝(三重県)
- 297 柏餅母と丸めし昭和かな 水川聖子(埼玉県)
- 298 牛死なせ鶏を死なせて山燃える 棚橋麗未(東京都)
- 299 夏兆す子等公園の水呑場 重原昇(新潟県)
- 300 春宵をローソク点し称へをり 小島岳青(新潟県)
- 301 轉りの共振の輪の中に在り 松木建二(東京都)
- 302 凍える手阿弥陀に見える握り飯 大塚徳子(埼玉県)
- 303 手のひらの雪溶けゆけり露天の湯 藤本由美子(兵庫県)

- 304 岩清水掬へば苔の香の仄と 西川孝子(奈良県)
- 305 青田中新宿行きの電車かな 杉浦俊雄(静岡県)
- 306 つぎだしの走り空豆三粒ほど 行方素芳(東京都)
- 307 その昔山の子であり暮の春 水落清子(東京都)
- 308 夏至と聞き満一歳を加算せり 椋本望生(大阪府)



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返答をお寄せ頂きありがとうございます！その中で特に多くの評価を集めた作品とそれを選んだ理由の一部をご紹介します。

4月号の心に残った作品

91 ランドセル何度も背負い春を待つ 長峰正晴(千葉県)

・孫たちの入学の時ランドセルを贈るのが楽しみだった。もらった子供の子供の気持ちがよく出ている。水落重式(新潟県)・入学を待つ子供の心情よく詠まれてゐる。伊藤修敬(三重県)・68年前に背負ったランドセル私にもおぼえあり中嶋清子(佐賀県)・新人生の待ち遠しい姿が映るようです。おめでとう三津木俊幸(千葉県)・四月十三日初孫が入園した。何度も園児服に手を通していた。井上静夫(栃木県)・はずむ心が詠みこんであるから。若月理依子(新潟県)・亡き母が私の小学校入学のときが人生で一番嬉しかったと云っていたのを思い出します。中山日出子(大阪府)・微笑ましい光景が浮びます。佐野しづ子(愛知県)・入学を心待ちにしているお孫さんだらうか。私も三才の孫がそうなるまで、元気でいたい。紺谷睡花(東京都)・新入児の待ち遠しい様子が目に浮びほほえましい。藤田照代(岡山県)・新しいランドセルがよほど嬉しいのでしよう。「何度も背負い」に喜んでる姿が浮びます。青木涼子(埼玉県)・小学校に入学する子供や孫の喜びが伝わってくる。上谷すみゑ(神奈川県) ほか

【自句自解】
近所の子が入学前からランドセルを背負っているのを見て微笑ましく思った。思い起せば私が小学校入学の時はまだまだ豊かでなかったのに、黒光りしたランドセルはそれこそ宝物のように見えた。ランドセルを貰ったことは少し大人になったよううれしさもあった。暇をみては背負ってその感触を楽しんだものだ。我が子の時も私と同様の仕草をしていた。時代が変わっても入学する喜びの象徴としてランドセルへの想いは変わらないと思う。

4 記憶より母校は小さし竜の玉 小西四郎(東京都)

・久しぶりに故郷の小学校を訪ねたのが感覚的によく伝わります。羽根田明(神奈川県)・小さい頃には何を見ても大きく思えたものです。梶鴻風(北海道)・子供の頃の視線をなつかしむ。炭崎博(滋賀県)・誰もが感じる思い出を「母校は小さし」で的確に言っている。長峰正晴(千葉県)・子供の頃の母校は大きく見えたものだ。成長して訪れ、拍子抜けしたのだろう。しかし、母校という宝物が竜の玉でよく表現されている。本田克夫(千葉県)・竜の玉がいい。行方素芳(東京都) ほか

《短歌》
247 百歳の歌人の歌集みずみずし老いをうたわず人間をよむ 篠原三郎(静岡県)

・歌人斯くあるべし。篠原さんの作品は「朝日歌壇」にても有名、老いを嘆かず人間を詠む。藤原昭三(滋賀県)・百歳まで生きることがすごい。「人間をよむ」の七文字がよい。宇都宮萬里(静岡県)・百歳ともなりますと競争体験や老いの悩みの歌が多い中「人間をよむ」とは素晴らしい。櫻井文子(東京都)・長寿の方の歌集には存在意義がある。居原田連星(大阪府)・「人生の目標」としたい。歌人の心意気を見習いたいと思う。早川モトエ(新潟県)・柴田と機会をみつけてにっこり読んでみたい。田中豊恵(新潟県)・齢を重ねてもみずみずしい作品を詠み重ねて人間を詠みたい。吉澤八千代(群馬県) ほか

《川柳》
273 オニは外やけに大きい妻の声 松田重信(埼玉県)

・その日のオニは誰かしら？ 鏡たか子(山形県)・定型、リズム感に推敲尽くされたことがよく判る。山本光胤(大阪府)・うちは子供が…鈴木青古(茨城県)・居ると邪魔、おらねば困る…てな具合。わかります。山崎一嘉(愛媛県)

《その他》
29 夜桜に深き闇あり愁ひあり 井原穂子(東京都)

248 姿なき犬の足あととどろつつ娘と歩く北国の冬 若月理依子(新潟県)

311 君らしくはばたけ贈るランドセル 塚本良子(愛知県)

※今後ふるって投稿をお願いいたします！

前回のアンケート

Q:父の日におすすめのプレゼント
 今回もたくさんのお返事ありがとうございました！やっぱり、「もの」もうれしいけれど、そこに込められた気持ちがあつてこそ、なのですね。



●**気持ち**

- 娘が小さい頃「おとうさんありがとう」のひと言と共に私のホッペにチューしてくれた松田重信(埼玉県)
- 幼き昔の故郷の地とか、肉親にもう一度会ってみたい 忍正志(兵庫県)
- 細やかな愛情あふれる言葉が欲しい 大谷伊佐男(埼玉県)
- 肩をもむ事でとても喜んでくれた亡父を思い出しました 近藤はつみ(福岡県)
- 顔を見せ話をする事 谷川利子(愛知県)
- 高校生の頃、お寿司屋さんでアルバイトをしていた時、マスターに作って貰った太巻きとお酒を買って父と語りあつた夜 渡辺勇治(埼玉県)
- 父がガンで倒れたとき、精一杯看病。父の日のプレゼントに父も笑って受け取ってくれた 濱崎祥子(鹿児島県)
- 父の仕事を手伝って喜ばれた事を思い出します 岡村君枝(茨城県)

●**酒類**

- 是非これだけは見たい美術館へ連れて行ってくれた娘の気持ちが嬉しかった 中村和弘(愛知県)
- どんな物でも心の暖かさに胸がジンと沁みます 佐藤古城(埼玉県)
- 子供の頃病床にあつた父の足もみを一生けん命して、とても喜ばれました 水川聖子(埼玉県) など
- お酒の好きな父でした。あの笑顔…大好きでした 堅田秀子(東京都)
- ウイスキー(スコッチ)。息子の気持ちが嬉しい 油谷郷史(兵庫県)
- 日頃愛飲している愛酒が一番うれしい 稲葉民雄(千葉県)
- 静かな宵に少々の酒(銘不要)と肴 千代田栄次(東京都)
- 飲兵衛は何時でもこれでOK 大川聡(新潟県)
- ワインやや辛口の白が好みで、私も一緒にグラスを上げたものです 萬濃その子(千葉県)
- お酒飲みの父にはやはり少しよいお酒を持つていくと喜んでくれました 小山恵美子(大阪府)
- お酒の好きな父。プレゼントしたお酒と一緒に夕飯。五十年の前の父の満足そうな顔を思い出します 高見多和子(兵庫県)
- 下戸の息子から純米吟醸酒をもらった 篠原三郎(静岡県)
- ワインのプレゼント。若い頃酒飲みで、

●**衣類**

- 夜おそく帰宅し迷惑をかけたので一層感じた 菅井文男(新潟県)
- 小さい息子からもらったビール 味が違う様おいしそうに飲んでいた主人 中林恵子(大阪府) など
- 二人の娘より姉の方は高級肌着、妹はファッショナブルな外出着 津田忠彦(岡山県)
- じんべい。夫は大変喜んで毎夏着用していました。(息子の嫁からの初プレゼント) 木暮珣子(群馬県)
- 娘からは背広(上下)いただき、うれしかった 松尾正一(岩手県)
- 作務衣 渡辺嘉幸(東京都)
- 実年令より派手めの毛糸(極細)のベスト 平賀田鶴子(愛知県)
- 例年東京の娘夫婦から半袖シャツが贈られます。いつか、たまに長袖をと話したらこの頃東京では夏の長袖は見つからないとか… 高杉杜詩花(北海道)
- 亡き夫が嫁さんに父の日にもらったオープンシャツを大切にしています 青木絹子(群馬県)
- トップファッションのベスト。着てみてこそばゆい物もあるが着なくてもありがとうと云っている 森崎榮久(岡山県)
- むすこより派手なデザインとカッコいいTシャツはうれしかった 北野耕兵(千葉県)

●**ネクタイ**

- 母が早く逝ってしまったので父のやめ暮らしは長かった。毎年のように少し若めのポロシャツをプレゼントした。自己満足だったかな 吉澤八千代(群馬県) など
- 百歳を迎える父に短歌をそえて朱の模様入りのネクタイ 櫻井文子(東京都)
- 洋服に似合うネクタイ 北岡晃(兵庫県)
- すこし派手なネクタイをよるこんで友人にみせびらかしていた父の姿がなつかしい 岩崎令子(大阪府) など
- アクセサリ**
 正装用のワイシャツにカフス釦が必要だなと思っていたところ娘から珊瑚細工のカフス釦とネクタイ・ピンの3点セットをプレゼントされ、いまでも愛用している 神田九十九(東京都)
- おしゃれなループタイをプレゼントしたらとても喜んで町の写真屋さんで記念写真を撮りそれが遺影になった 息子がプレゼントしていた(主人は楽しみにしていた)ズボンの革バンド 勝田久美(大阪府)
- キーホルダー。娘からのプレゼント。古くなったのを見ていたでしょう、新しいのをプレゼントしてくれました 山崎鶴恵(鹿児島県) など

A Q U E S T I O N N A I R E

●花・植物

- ・観葉植物。部屋に置き皆で賞でています
神一男(静岡県)
- ・「五葉松」の盆栽
三津木俊幸(千葉県)
- ・花が好きなので鉢植えなどが嬉しい。
宿根・球根など花後もたのしめる
池本勇(大阪府)
- ・シャイなお父様に花束のプレゼント
はいかがでしょうか(特に娘さんから
感謝をこめて)
北嶋八重(京都府) など

●手紙

- ・遠く離れて暮らす子から便りかFAXがあればいいと夫の言葉
寒川靖子(香川県)
- ・不慣れな手紙 安部龍太(山梨県)
- ・家族と孫(四人)からの寄せ書き、思わずジーンと！ 早川述史(愛知県)
- ・娘が小さい時にプレゼントと一緒に
つけていた手紙がうれしかった
長峰正晴(千葉県)
- ・手で書いた文 山本せつ子(鹿児島県)
- ・手紙又はカード。子供それぞれの個性に満ちた文章で
木田亜津子(兵庫県)
- ・「戦争体験記」を書いて貰い米寿の年の絶筆となり宝物にしている
早川モトエ(新潟県) など
- 筆記具**
- ・パソコンの時代ですが万年筆が欲しいです
松嶋光秋(東京都)
- ・二十五年程前、子供らに貰ったパークの万年筆、大切に大切に一生使っています
延原令岱(岡山県)

●ボールペン 書き易くて愛用

- ・望月哲土(東京都)
- ・息子から父の日にパークP・B届いた。五十年使ったパークPを失くした
処で喜び格別
針ヶ谷里三(東京都) など

●旅行

- ・岡山から九州まで新幹線で旅をしたい
佐伯セツ子(香川県)
- ・一家揃っての温泉旅行などいいですね
炭崎博(滋賀県)
- ・旅行の招待。一日ゆっくりくつろげる場所がよいかも
田中美智子(埼玉県)
- ・旅行券 老人ならば温泉のあるところドライブがてらの遠出かな…
田中豊恵(新潟県)

●その他の回答

- ・子供達からの心のこもった旅行券
今井久枝(神奈川県) など
- ・嫁が手作りのお重を持参し祝ってくれた
長谷川ふさを(新潟県)
- ・スニーカー。おかげで健康。よく歩いています
石原学(群馬県)
- ・手編みの小物。冷え症をおもんぱか
られて
有坂馨園(福島県)
- ・暑がりの夫に扇子、破れた団扇で去年過し今年も大切にしまい込んであり「物を大切にするんだ」と云ってます
伊藤みさ(静岡県)
- ・息子がまだ小学生だった頃、ゴルフバックに入れるクラブ用の筒を一本くれた。なけなしの小遣いの中で考え抜いたのだろう。うれしかったねえ！
仁藤ひろじ(埼玉県)

●パジャマが実用的でよかった。くれたことのない息子だったからかも

- ・梶鴻風(北海道)
- ・帽子が意外と喜ばれた。明治生まれの父はおしゃれだった
水落清子(東京都)
- ・主人の自費出版の編集校正をして発刊出来た
乾久子(滋賀県)
- ・懐中時計を姉妹みんなで贈って喜ばれました。あの時の父の笑顔は今でも思い出します
関根華華(東京都)
- ・ルーペ(拡大鏡)。書いたり読んだりが好きなお父だったので！小さな字が苦手でしたから…小野寺裕子(宮城県)
- ・ケーキですね。皆んなで食べる幸せです
吉野成行(愛知県)
- ・私達夫婦と孫との写真
美濃部紘三(新潟県)
- ・子供たちが持ち寄りパーティをした
富樫和子(山形県)
- ・孫から貰った電子辞書…文字が大きく点の有無、撥ねるか否かまではつきり分かる
相馬竹浪(新潟県)
- ・TEL一本入れることが何よりのプレゼントだと思えます
佐藤佑子(福島県)
- ・電気ヒゲそり
黒澤正行(福島県)
- ・活字の大きい「広辞苑」
佐藤茂三郎(千葉県)
- ・蝙蝠傘、愚息から送られたもの。大切に八年目となりました
三ツ木宗一(東京都)
- ・バカラのグラス
古谷力(東京都)
- ・コーヒー党の父にブルーマウンテンとキリマンジャロにハワイのコナとノニ

●大橋絵代(千葉県)

- ・寝室用の電気スタンド
大橋恒次(新潟県)
- ・ハガキ「投句に使うから」
星野三興(新潟県)
- ・長寿箸―南天で出来てゐる―八十の夫は大喜び
今井温子(奈良県)
- ・マッサージクッション
石川郁子(埼玉県)
- ・ペアの万歩計、東海道五十三次が表示されてました
小川よう子(大阪府)
- ・二男より目覚まし時計が届き、実用的で重宝しています
大下志峰(福井県)
- ・息子からトランジスタラジオ、娘から赤いシャツ 野中よしみ(神奈川県)
- ・相手の好きな物・値段を少し考える
松田義登(福岡県)
- ・いままで持ったことのない新しいもの。おいしいものを少しだけ
桑原謙一(群馬県)
- ・父の句と自分(息子)のバースデイ新聞
村岡盛英(群馬県)
- ・日ごろ何気なく「ほしい」と言っていたものが届いた時はうれしい
針生清(千葉県)
- ・吟行の陽よけ…殊に男物！
鈴木清美(愛知県)
- ・何が来るかわからぬところにしたのしみがありません
井口桂山(新潟県)
- ・亡夫は「父の日なんて何もいらぬよ」と常々言っておりました。テレ屋だったのです。
増本和子(千葉県) など

月の匣発刊一周年 記念大会開催!!

去る4月3日(日)、弊社で月刊誌をお手伝いさせていただいている「月の匣」の一周年記念俳句大会・つどいが日暮里ホテルラングウッドにて開催されました。当日も余震が続くなか、開会に先立ち東日本大震災で被害に遭われました皆さまへのお見舞いと、亡くなられた方々のご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。

同人千原起天様の開会挨拶に続き、主宰水内慶太様のご挨拶。その後は、来賓として作家村上護様、中原道夫様(「銀化」主宰)、松尾隆信様(「松の花」主宰)、立花藏様(元「俳句朝日」編集長)、倉橋羊村様(「波」主宰)、林誠二様(「文學の森」編集



長)と多くの方々のご祝辞がありました。加茂一行様による乾杯のご発声の後は、中国生まれの程農化様による二胡の素晴らしい演奏や、主宰自らがテーブルを回り来賓の紹介を交えたテーブルスピーチなど、終始和やかな雰囲気。来賓・会員80余名はあたたかなおもてなしの心に触れ、大満足の春の宵でした。

夕日俳句大賞 今年も開催します

詳細は、同封のチラシを参照ください。

締切/2011年

6月23日(木)

必着

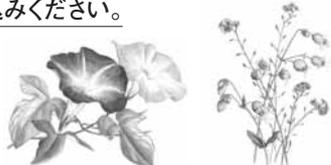
締切が迫っています。

別紙のチラシにご記入のうえ、いまずぐお申込みください。



ポストカード発売中!

季節毎の彩りをさりげなく配した弊社のオリジナルポストカード(1組8枚入り500円)。毎回ご好評をいただき、たくさんのお申込をいただいています。今回は夏バージョンの中より「ラベンダー」を同封いたしました。お気に召していただいた方は、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手と一緒に封書にてお申し込みください。**



「花咲かせよう」プロジェクト始動!

第一弾は…「2012年手帖」、「ご縁ブック」、「中身は無地の自由手帖」、「手ぬぐい」

今回の「喜怒哀楽6月号」に同封いたしました。ご好評いただいております「手帖」、「ご縁ブック」が本年より変わります。この度の東日本大震災を受け、弊社としてもできることを少しでも具体的な形で示していきたいと思っています。「小さいことでも、できること」。別紙チラシをご参照のうえ、ぜひご賛同・お申込みくださいますようお願いいたします。



ご投稿・ご注文(振込) 締切:2011年7月31日(日)

スタッフの一言

Q. 父の日におすすめのプレゼント

木戸 敦子



頓着しないタイプなので以前のゴルフバッグは新潟御用達「加島屋」の手提げ袋。それはない〜とバッグをプレゼントしたが依然「加島屋」。一緒に飲むのが一番だね。末永く健康で!

古川 久美子



今年は、ある企画を企ててはいるのですが、果たして実行に移されるのか…!? 今までそんな習慣もなかったのですが、日ごろの感謝をこめて素敵何かをプレゼントしたいと思います。

菅 真理子



「退職したらお母さんと一緒に南の島でゆっくりしたいな〜」と話す父。でもまだまだ現役。世界の美しい景色が載っている本をプレゼントしました。寝る前にゆっくりとページを繰っている様子…☆

仲由 真実



ウォーキングを習慣にしている父。今年はウエストポーチをプレゼントしました。父は基本的に何でも喜んでくれるようなので毎年プレゼントを考えるのが楽しみです。

上村 真智子



20代の頃、帽子をプレゼント!とても喜んでくれて、しょっちゅう被ってくれたのですが、よく見たら婦人もの!!! 気が付いても被っている娘のプレゼントは何でも嬉しいようだ!!!!

金子 ゆり子



特にこれとプレゼントをというものはなかったと思います。結婚して子ども達をつれて実家に行った時の父の嬉しそうなお顔が楽しみで生きている間は、よく顔見せに行きました。

石山 由希子



特に趣味も無い父には、困って結局「いつもの地酒(朝日山)」をプレゼント。今年はバラでも添えてみます。でも一番なのは楽しく笑顔で四方山話ですることでしょうか。

山田 千秋



父の日の慣習がまだ一般的でないうちに他界してしまった父。私が幸せでいることが父へのプレゼントかしら…

吉田 瞳



以前は名刺入れやネクタイをあげていたが、最近は母の日のように花を贈って喜ばれている。趣味が畑なので今年は野菜の苗でも贈って野菜をもらおうかな(笑)

●お客様の『リレーエッセイ』

写生について

松嶋光秋（東京都）

短歌や俳句の「写生」とは、明治中葉に正岡子規が唱えた歌俳論です。短歌では斎藤茂吉が、俳句では高浜虚子が、さらにその写生論を深めました。

正岡子規は、「只ありのまま見たるままに其事物を模写することを可とす」といっています。

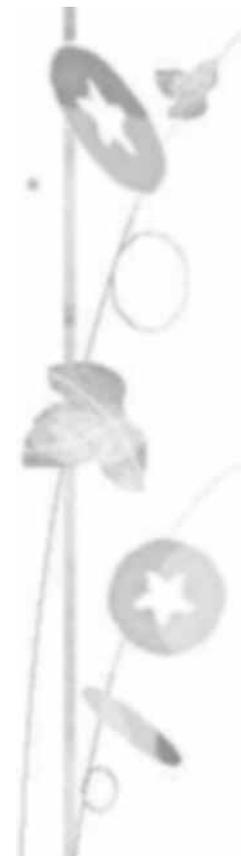
高浜虚子は、「写生とは実際の景色を見て句作することであります」（『俳句読本』）

現代の俳人は、「写生とはすなわち、本人が見えるように対象を写すのだということになります」（仁平勝「俳句をつくろう」）といっています。

ところで、写生には次の三つがあります。日本画の写生についての考え方は、

- ①実の写生
- ②虚の写生
- ③気の写生

実の写生は、眼前にあるものを描くことです。
俳句作品では、



咲き満ちてこぼるる花もなかりけり

高浜虚子

春草に轍のあとの外れてあり

高野素十

かたまつて薄き光の董かな

渡辺水巴

ということになります。

虚の写生は、現実に存在していない龍や麒麟、鳳凰など想像上の動物を描くことです。

これに該当する俳句作品は見つかりません。

気の写生は、風など目に見えない物を描くことです。

俳句作品では、

凧に浅間の煙吹き散るか

高浜虚子

浅間山の噴煙が吹き散っていることで「凧」を表現しています。

頂上や殊に野菊の吹かれをり

原 石鼎

野菊の揺れに、山頂を吹き渡る「秋風」を描いております。

写生とは、ポエジー（詩情）のリアリティー（現実性）を確保すること
で、つまり、眼前にまざまざと見えるように俳句を描写することに尽
きると思います。

＊どつぺり坂周辺

新潟駅の万代口を出て、まっすぐ歩いていく。かすかな海風と川風に吹かれながら萬代橋をわたり、にぎやかな中心街・古町も過ぎていくとつきあたるのがどつぺり坂。坂を上ると、歩いてきた古町が望める。どつぺり」というこの風変わりな名前の由来は、ドイツ語で「二重にする」という意味のドツペルン。はて……という思いが湧いてくるが、実はこういうことらしい。この坂の上には旧制新潟高校の学生寮があった。あまり坂を往来し、古町に遊びに行つてばかりいると、落第する(ダブる)……。ちなみにこの坂の階段は、及第点の六〇点に一つ足りない五九段。

この坂の周辺は、坂口安吾の生家跡がある町(新潟市中央区西大畑町)で、安吾の「吹雪物語」から当時の様子を知ることができる。

南方は異人池。東は天主教会堂。北はキナレ亭の廃屋の崖にとざされ、西は海へ出るポプラの繁った砂丘であった。そういえば異人池もポプラの繁みを映すためにあるような池であったし、天主教会堂もポプラの林の中にあつた。



天主教会堂というのが現在の新潟カトリック教会。西大畑には領事館があり、それで教会もつくられたという話だ。異人池は天主教会堂の神父が井戸を掘ったことからできた池だったと伝えられる(残念ながら現在はない)。坂のとなりの「異人池ヒルズ」という建物を見るたび、なぜ異人……そして池……と思つていたが、そういう歴史があつたのか。異人屋敷もあつたことが伝えられており、かつての西大畑周辺は外国人の多い、異国情緒あふれるまちであつたとしのばれる。長崎になじみが深いと話す友人が新潟を訪れたとき、なんだか近いものを感じると言つていた。今は目立った洋館もなく普通の町にみえるので、そのときは単純に「新潟をほめてくれたのだろう」と思つていたが、なるほど友人はそういう雰囲気を感じ取つていたのかもしれない。

どつぺり坂の手すりには、碓のデザインが施されていた。(菅真理子)

＊医の博物館

中学校や小学校がある住宅街の中、日本歯科大学新潟生命歯学部内に医の博物館がある。平日のお昼時に訪れてみた。食堂の手前の階段を上るとそこが入口になつている。

同館は平成元年九月に、日本で初めての医学博物館として開館した。日本には、岐阜のくすり博物館、福島野の野口英世記念館などもあるが、公的な医学博物館としては唯一の存在だ。十五世紀から現在まで、東西の古医書、浮世絵、医療器具、薬看板、印籠など約五千点を展示、保管している。寄贈されたものがほとんどで、前学長がこだわつて収集したものもあるという。貴重な資料が多く、全国から医学に関わる方々が見学にきたり、雑誌「日経サイエンス」に紹介記事が掲載されたりもしている。また町内会などの観光コースになることもあり、親しまれているという。

まずは杉田玄白「解体新書」の原本などがガラスケースに展示されている。続いて豊富な数の浮世絵が並ぶ。江戸の医療風俗を描いたもので、希少価値が高い。お歯黒の女性や、当時歯ブラシの役割をしていた房楊枝や爪楊枝を使う絵のシリーズが並んでいる。仏の三十二相にかけて洒落をきかせた題名のものやパロディー

のものもあり、見ていて飽きない。休憩用のテーブルのガラス板の中には、医学関係の切手コレクションが展示されている。数多くある医学切手の中でも、歯科に関する切手は日本では一種類しか発行されていないということだった。

医学博物館ということでは難しい資料が多いのではと少し心配していたが、バラエティーに富んだ展示品の数々、装飾の小物など細部にもこだわりが感じられて興味深かった。さらに職員の方に情熱的な説明をいただいたことで医学の歴史に親しむことができた。展示室は広くはないが、たっぷり時間をかけて見て回りたい博物館である。(仲由真実)



住／新潟市中央区浜浦町1-8
日本歯科大学新潟生命歯学部内
☎／025-267-1500(代表)
開館／月～金曜日 午前10時～午後4時
(祝日 6月1日 8月12日 16日 12月29日～1月4日は休館)
入館料／無料



わくわくの日々を求めて

高田正子

聖鐘は飛び梵鐘は青葉中

野澤節子

今、この句を一時間ごとに思い出しながら暮らしている。転居したわけではない。長年使ってきたリビングの時計が狂い、新しくした時計が時刻の数だけ鐘を打って教えてくれるのである。

日本の鐘の音ではないな、と説明書を読むと、ウエストミンスター寺院の鐘だという。軽やかで、夜中に聞いても怖くない。ここはどこだ、とばかりにその都度飛び上がっていた時期も過ぎ、今では鳴らないと寂しい、というより困る。どういう具合か、午後六時の鐘をときどきとばす時計なのである。

時計の文字盤は絶対アナログ派である。鐘を打つ時計を買ってしまったのは、時流の電波時計であるにもかかわらず、アナログの雰囲気味わえるように感じたからかもしれない。

時計に限らず、デジタルの恩恵には首までつかっている。現にこの原稿も、もちろんパソコンを使って書いている。

なにしろ便利だ。かつてはもっぱら「書く」と「送る」ためにあつたパソコンで、今では「買う」「申し込む」「調べ」もする。娘たちの場合はこれに「聴く」と「話す」が加わる。

便利すぎて、私はしみじみ阿呆になった。書けなく

早くも高田さまのエッセイは最終回。心底、俳句が、座が、そして人が好きなのです。いつもいきいきわくわくの理由が垣間見られるようです。次回8月号からは「岳」「鷹」「鷹」の同人を経て、20年に新しい会の主宰となった女性俳人です。お楽しみに！

なった漢字もたくさんある。阿鼻叫喚とか喧々囂々、侃々諤々、右顧左眄なんて御茶の子さいさいだったのに。手書き原稿派でない私であるが、こだわっている手書きもある。その一つが句会の進め方だ。

句会ほど楽しいものはない、と心から思うので、カルチャーの講座はもとより、大人数の大学の講義でも句会形式をとっている。ふつう句会は①当日短冊に書いて出句②各自で清記（選句用の回覧用紙を作る）③回覧して選句④披講（声に出して選句を読み上げる）⑤合評（互いに評しあう）⑥選評（講師が評する）と進む。事前に出句してもらい、パソコンで出句一覧を作れば②を割愛でき、コピーを配布すれば③がスムーズになる。④も誰かがまとめて読めば効率的。⑤はカットして⑥のみとすれば、かなり能率的に進行させられる。

大学では時間の都合もあり、毎回同じことはできない。が、手順をすべて踏めるようにしたうえでショートカットを試みると、おおかたの学生が面倒なほうが好きだと答える。私も、あらかじめすべて整えてしまうと、想定外の事態に困ることはなくなるが、授業中ヒマで退屈だ。何が出て来るかわからないからこそ面白いのは、先生も同じなのである。

やっぱり何歳になってもわくわくしていないと、ね。

2011. 6. vol.56 (2011年6月10日発行/隔月発行)
 ●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション
 〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-17
 TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
 喜怒哀楽書房 株式会社ミュージズ・コーポレーション
 ☎ 0120-819-395
 e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

編集後記
 P3「新潟日報選者に学ぼう」の会で、編集にあたる文芸部の方が「文字を見ただけで〇〇さんだ」とか「〇〇さん最近投稿がないけれどお元気かしら」と思うと話していた。「喜怒哀楽」にいただくアンケートも同様で、字や句の特徴でその方とわかり、はたまた東北と関西それも男女でそっくりな字を書く方もいらして楽しませていただいている。そして「言葉は人なり」とも言っていた。自分は生きているぞ!という日々の想いをご自分の言葉で、これからどうぞご投稿ください。小学生の頃「エッチな字だね」と言われたけど文字は人なりなの? 忘れよう、そんな昔のこと。(木戸敦子)